

竹の台 5 年計画 骨子

竹の台を一つの家族に

～思いやりと元気あふれる「まち」をめざして～

■ 5年後のまちのすがた（全体目標）

1. 誰もが地域とつながり、安心して暮らせるまち
全ての世代が安心・安全に暮らせるよう、みんなが協力しあい、声をかけあい、支えあう「まち」にしよう。
2. 魅力あふれる人や活動がいっぱいのまち
さまざまな世代が生活し、一人ひとりが得意分野でまちの活動に参加することで、明るく、楽しく、元気あふれる「まち」にしよう。
3. 自立と自律のまち
まちに必要な活動を、自分達で考え、話し合い、決定し、実行できる「まち」にしよう。

■課題別目標（少子化／高齢化／防犯／防災／交流親睦／地域団体のあり方）

1. 少子化

方針：地域全体で子どもを育て、次世代も竹の台の定住を選ぶまちをつくる

- (1) 若い世代が住みたいと思う魅力をつくる
- (2) 子育てしやすい環境をつくる
- (3) 子どもがのびのび遊べる環境をつくる
- (4) 子どものころから地域活動に参加できる環境をつくる

2. 高齢化

方針：高齢者が立場を気にせず交流し、生き生き暮らせ、活躍しやすいまちをつくる

- (1) 高齢者が肉体的、精神的に元気でいられる環境をつくるため、立場を気にせず交流できる機会や場をつくる
- (2) 高齢者が安心して生活できる環境をつくるため、NPO 法人や民生委員と地域が連携し、高齢者の生活を支援できる体制をつくる
- (3) 地域活動の今後の担い手を確保するため、退職した男性や高齢者が自らの能力を発揮し、地域貢献できる機会や場をつくる

3. 防犯

方針：各自治会・管理組合が主体となり、夜も明るく安心して暮らせるまちをつくる

- (1) 住民全体の防犯意識を高める
- (2) 各自治会・管理組合が自主的に、防犯活動を実施できる体制をつくる
- (3) 門灯点灯運動などにより夜も明るいまちを実現する
- (4) 防犯パトロールが効果的に実施できる体制をつくる

4. 防災

方針：家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災対策が図れるまちをつくる

- (1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災計画を策定し、それに基づく訓練や、施設・設備・備蓄等の整備を行なう
- (2) 災害時に、住民同士で助けあえる力をつける。特に、高齢者をはじめとする災害時要援護者を住民同士でケアできる体制をつくる
- (3) 1 家族 1 名の市民救命士習得を実現する

5. 住民交流・親睦

方針：交流・親睦がしやすい機会や場が、さまざまな世代で用意されたまちをつくる

- (1) いろいろな立場や世代の住民の交流・親睦を図れる機会や場をつくる
- (2) 住民交流・親睦のための環境を整備する
- (3) 住民交流・親睦の場を支援する仕組みをつくる
- (4) 住民交流・親睦の場を図りやすい情報発信を行ない、積極的な参加を促

6. 地域団体のあり方

方針：自治会を中心に、各団体が連携し、住民が主体的に参画しやすいまちをつくる

- (1) 活動や経験が蓄積・持続しやすい自治会・管理組合の運営体制をつくる
- (2) 新たな人材を発掘し、地域活動主体を育てる
- (3) 地域の自主財源を確保する

1. 少子化

方針：地域全体で子どもを育て、次世代も竹の台の定住を選ぶまちをつくる

目標：

- (1) 若い世代が住みたいと思う魅力をつくる
- (2) 子育てしやすい環境をつくる
- (3) 子どもがのびのび遊べる環境をつくる
- (4) 子どものころから地域活動に参加できる環境をつくる

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①今ある子育て環境に関する情報をまとめ、竹の台総合新聞やHPで発信する
- ②今ある地域活動に、子どもが参加しやすい工夫をして呼びかける
- ③小学校4年生以上の子どもが気軽に集える場づくりを検討する

〈第2ステップ〉

- ①竹の台出身の若者たちの同窓会を企画する（竹の台ふれあいまつりなどで）
- ②子どもが自然とふれあう場～農業体験など～を企画、実施する
- ③地域委員会子ども部が中心となり、子ども会の活動支援を行う

〈第3ステップ〉

- ①子どものリーダーになれる人材を見つけ、機会や場を提供する
- ②竹の台全体での子ども会の復活、統合を図る
- ③見守り員を募集し、小学校の放課後教室・図書室開放を実現する

2. 高齢化

方針：高齢者が立場を気にせず交流し、生き生き暮らせ、活躍しやすいまちをつくる

目標：

- (1) 高齢者が肉体的、精神的に元気でいられる環境をつくるため、立場を気にせず交流できる機会や場をつくる
- (2) 高齢者が安心して生活できる環境をつくるため、NPO 法人や民生委員と地域が連携し、高齢者の生活を支援できる体制をつくる
- (3) 地域活動の今後の担い手を確保するため、退職した男性や高齢者が自らの能力を発揮し、地域貢献できる機会や場をつくる

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①今ある活動グループに関する情報をまとめ、竹の台総合新聞やHP等で発信する
- ②地域委員会のメンバーが核になり、高齢者の会食等の機会をつくり、呼びかける
- ③地域活動を支援するNPOとの連携を検討し、体制づくりを行う

〈第2ステップ〉

- ①（一人暮らしを中心とした）男性のための料理教室を企画、開催する
- ②高齢者が自分の特技や経験（仕事）を伝える講師となれる講座を企画、開催する
- ③高齢者の買物支援（ツアー・移動販売・ITショッピング講座等）を企画、実施する

〈第3ステップ〉

- ①高齢になっても竹の台に住み続けられる施設を行政と連携して整備する
- ②有償ボランティア・人材バンクの仕組みにより、高齢者を支え合う体制をつくる
- ③コミュニティバスの運営を検討する

3. 防犯

方針：各自治会・管理組合が主体となり、夜も明るく安心して暮らせるまちをつくる

目標：

- (1) 住民全体の防犯意識を高める
- (2) 各自治会・管理組合が自主的に、防犯活動を実施できる体制をつくる
- (3) 門灯点灯運動などにより夜も明るいまちを実現する
- (4) 防犯パトロールが効果的に実施できる体制をつくる

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①日頃のあいさつ運動により、顔見知りを増やしておく
- ②防災福祉コミュニティで、各自治会への支援の仕方を検討する
- ③大通りに面した企業ビルに、夜間の点灯を要望する

〈第2ステップ〉

- ①（竹の台防災・防犯福祉コミュニティの呼びかけで、）各自治会で防犯活動実施を検討してもらう
- ②警察とタイアップした防犯イベントを企画、実施する
- ③犬の散歩中の方々等に「パトロール中」等の夜光る腕章等をつけてもらう

〈第3ステップ〉

- ①各自治会主導で、防犯マップ作成、まちの灯り点検、門灯点灯運動などを実施する
- ②防犯パトロール（青パト）を夕方の時間帯に実施する
- ③防犯に関するイベント（モデル路線イルミネーション化、空家活用等）を検討する

4. 防災

方針：家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災対策が図れるまちをつくる

目標：

- (1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災計画を策定し、それに基づく訓練や、施設・設備・備蓄等の整備を行なう
- (2) 災害時に、住民同士で助けあえる力をつける。特に、高齢者をはじめとする災害時要援護者を住民同士でケアできる体制をつくる
- (3) 一家族一名の市民救命士習得を実現する

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①避難所運営マニュアル等も含めた竹の台全体の地域防災計画を策定する
- ②元気な高齢者が、災害時に活躍できる体制を検討、実施する
- ③一家族一市民救命士習得を、既存の媒体等で呼びかける

〈第2ステップ〉

- ①各自治会に呼びかけ、防災（避難）計画を検討、策定してもらう
- ②防災訓練への参加率を上げる工夫を考え、実施する
- ③要援護者支援の体制づくりに取り組む

〈第3ステップ〉

- ①各自治会単位で、防災計画に基づく訓練を実施してもらう
- ②元気な高齢者を中心とした、訓練を実施する
- ③要援護者支援の体制に基づく訓練を実施する

5. 住民交流・親睦

方針：交流・親睦がしやすい機会や場が、さまざまな世代で用意されたまちをつくる

目標：

- (1) いろいろな立場や世代の住民の交流・親睦を図れる機会や場をつくる
- (2) 住民交流・親睦のための環境を整備する
- (3) 住民交流・親睦の場を支援する仕組みをつくる
- (4) 住民交流・親睦の場を図りやすい情報発信を行ない、積極的な参加を促す

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①地域委員会のメンバーが核になり、高齢者の会食等の機会をつくり、呼びかける
- ②竹のパーク、スポーツ 21、福祉センターを利用して活動している交流団体のリストをまとめ情報発信する
- ③一斉清掃を小中学校と連携して実施する

〈第2ステップ〉

- ①たけのパークを利用した男性中心の食事会やビアパーティを開催する
- ②竹の台全体の旅行（農業体験、バス旅行など）を企画、開催する
- ③夜に行うウォーキングサークルを呼びかけ、開催する

〈第3ステップ〉

- ①駅近くのマンション・企業ビル・店舗に、地域の活動スペースを設けてもらう
- ②竹の台全体で参加できるスポーツ・健康イベントを企画、開催する
- ③既にある学校保護者の活動に地域が協力する、国際交流活動を検討・実施する

6. 地域団体のあり方

方針：自治会を中心に、各団体が連携し、住民が主体的に参画しやすいまちをつくる

目標：

- (1) 活動や経験が蓄積・持続しやすい自治会・管理組合の運営体制をつくる
- (2) 新たな地域活動主体を育てる
- (3) 地域の自主財源を確保する

活動提案：

〈第1ステップ〉

- ①協力できること、得意なことなどを登録できる人材バンクを検討し、体制をつくる
- ②有償ボランティアの仕組みづくりを検討する
- ③地域団体間の連携を検討し、体制づくりを行う

〈第2ステップ〉

- ①ゴミステーションの掃除といった自治会の課題を、コミュニティ・ビジネスの手法を用いて解決する
- ②地域団体が連携し、行政と一緒に対話する場をつくる
- ③自治会の魅力アップ、メリットづくりを提案し、実施してもらう

〈第3ステップ〉

- ①就労世代や65歳以上男性を対象とした登録制組織をつくる
- ②会長の立候補制、役員任期の2年毎重複体制化を自治会に提案し、実現する
- ③神戸市とパートナーシップ協定を締結し、より緊密な連携体制をつくる